



図2 ラズドリナヤ河（綴芬河）流域における女真遺跡の分布

- | | | | | |
|--------------------|-----------------|----------------|-----------------|-------------------|
| 1 クラスノヤロフスコエ城址 | 2 ウチョースナエ 4 遺跡 | 3 ウチョースナエ 7 遺跡 | 4 ウチョースナエ 2 遺跡 | 5 コジノ・ウスリースク城址 |
| 6 ザバド・ウスリースク城址 | 7 ザガラドナエ 37 遺跡 | 8 ザガラドナエ 15 遺跡 | 9 ザガラドナエ 4 遺跡 | 10 ザガラドナエ 14 遺跡 |
| 11 ダボラポーレ 1 遺跡 | 12 ダボラポーレ 14 遺跡 | 13 ダボラポーレ 8 遺跡 | 14 ダボラポーレ 10 遺跡 | 15 スヴォロフスキー・ラゲル遺跡 |
| 16 ザラトイ・コーラス 10 遺跡 | 17 ボリソフカ 24 遺跡 | 18 クグキー 1 遺跡 | 19 スタロレチェンスコエ遺跡 | 20 ザレーチナエ城址 |
| 21 パクロフカ城址（明代） | 22 コンスタンチノフカ城址 | | | |

表1 ラズドリナヤ河（綴芬河）流域における女真遺跡

No.	遺跡名	所在地	性格	遺物			備考
				瓦	土器	陶磁器	
1	コジノ・ウスリースク城址	ウスリースク地区	平地城	●	●	●	
2	クラスノヤロフスコエ城址	ウスリースク地区	山城	●	●	●	
3	ダボラポーレ 1 遺跡	ウスリースク地区	集落・寺院？	●	●	●	渤海・女真
4	ダボラポーレ 6 遺跡	ウスリースク地区	集落	●	●	—	
5	ダボラポーレ 7 遺跡	ウスリースク地区	集落	●	●	●	耀州窯系青磁
6	ダボラポーレ 8 遺跡	ウスリースク地区	集落・寺院？	●	●	●	ヤンコフスキー、渤海・女真
7	ダボラポーレ 10 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	—	—	詳細不明
8	ダボラポーレ 13 遺跡	ウスリースク地区	集落	●	—	—	
9	ダボラポーレ 14 遺跡	ウスリースク地区	集落	●	●	—	鷗尾
10	ダボラポーレ 15 遺跡	ウスリースク地区	集落	●	●	●	渤海・女真
11	ダボラポーレ 16 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	●	—	
12	ザガラドナエ 4 遺跡	ウスリースク地区	集落	●	●	—	
13	ザガラドナエ 5 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	—	—	
14	ザガラドナエ 14 遺跡	ウスリースク地区	集落	●	●	—	
15	ザガラドナエ 37 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	●	●	
16	ウチョースナエ 2 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	—	—	台風により破壊
17	ウチョースナエ 4 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	●	●	
18	ウチョースナエ 7 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	—	—	
19	スヴォロフスキー・ラゲル遺跡	ウスリースク地区	集落	●	●	—	
20	ザラトイ・コーラス 10 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	●	—	
21	クグキー 1 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	●	—	
22	オシノフカ 2 遺跡	ミハイロフカ地区	集落	—	●	●	
23	オシノフカ 3 遺跡	ミハイロフカ地区	集落	—	●	●	
24	クグキー 2 遺跡	ウスリースク地区	集落	—	—	—	鞆鞆集落（堅穴のくぼみあり）
25	ボリソフカ 11 遺跡	ウスリースク地区	墓地	—	—	—	鞆鞆墓地
26	ザレーチナエ 6 遺跡	パクロフカ地区	集落	—	—	—	
27	パクロフカ城址	パクロフカ地区	平地城	●	●	？	明代

1. ダボラポーレ遺跡群

本遺跡は、クラスノヤロフスコエ城址からは北西に8～12km、ザパド・ウスリースク城址の北西に位置する平地遺跡である。綏芬河左岸の微高地に立地し、ダボラポーレ1遺跡、ダボラポーレ14遺跡、ダボラポーレ8遺跡、ダボラポーレ10遺跡などの女真遺跡が知られる。現在は大半の遺跡が畑地である。特に、ダボラポーレ8遺跡では、陶質土器(壺・甕類)のほか、大量の瓦を確認できる。また、本遺跡では耀州窯系の青磁碗の破片も出土している⁸⁾。

2. ザガラドナエ遺跡群

綏芬河左岸の微高地に立地する平地遺跡である。クラスノヤロフスコエ城址の北西約2～6kmの地点に位置する。女真遺跡としては、ザガラドナエ37遺跡、ザガラドナエ15遺跡、ザガラドナエ4遺跡、ザガラドナエ14遺跡などが知られる。特に、ザガラドナエ37遺跡では陶質土器(壺・甕類)や施釉陶器(黒釉陶器など)が確認された。

3. スヴォロフスキー・ラゲリ遺跡

綏芬河右岸に所在する丘陵地に立地し、クラスノヤロフスコエ城址の北西約15kmに位置する。本遺跡の北西約1kmには、女真の平地遺跡とされるザラトイ・コーラス10遺跡が所在する。遺跡は軍関連施設内にあり、大部分が破壊されている。今回の踏査では、平瓦を確認した。

4. ウチョースナエ4遺跡

綏芬河右岸に立地する平地遺跡である。クラスノヤロフスコエ城址の南西約1.5kmに位置する。遺跡は綏芬河によって破壊されつつある。2009年に実施された発掘調査では、炕付建物跡が検出されている。クロウノフカ文化、靺鞨・渤海、女真の遺物が確認されている。出土遺物は陶質土器、定窯系白磁、北宋銭などがある。

調査成果・考察

1. 金代女真の村落・寺院遺跡の特徴

1194年に宋の徐夢莘(1126～1207年)が完成させた『三朝北盟会編』巻3には、女真村落について「其俗依山谷而居。聯木為柵屋、高数尺。無瓦、覆以木板。或以樺皮。或以草。綢繆之牆垣。籬壁。率皆以木門。皆東向。環屋為土床、熾火其下。相與寢食起居其上。謂

之炕、以取其煖。奉佛尤謹。」と記されている。今回の綏芬河中流域における女真遺跡の踏査では、丘陵地や山間部の村落については不明瞭であったが、城郭周辺の沖積地に城壁を伴わない女真遺跡が多数分布することを確認できた。また、ダボラポーレ8遺跡やスヴォロフスキー・ラゲリ遺跡のように、城郭遺跡以外にも瓦・磚・鷓尾を伴う遺跡が存在することを確認した。このような遺跡は、吉林省德惠市攬頭窩堡遺跡や吉林省敦化市永勝遺跡など中国東北地方でも確認されている。以下、今回の調査で得られた女真の村落・寺院遺跡の特徴を列記する。

①女真村落・寺院は城郭とは異なり、城壁で囲郭されていない。

②女真村落は河川流域の平坦地(沖積地)に立地するもの、丘陵(山上)の先端部に立地するものに大別できる。クラスノヤロフスコエ城址やユジノ・ウスリースク城址、ザパド・ウスリースク城址などの大型城郭遺跡の周辺に多数の村落・寺院が分布する。特に、河川・陸上交通の結節点に大規模村落が形成される。

③女真村落の規模は面積10000～25000m²のものが多い。ダボラポーレ1遺跡のように70000m²を超える遺跡もある。傾向として、女真の平地遺跡は、靺鞨・渤海代よりも大規模化する。特に、ウスリースク市周辺では村落遺跡の分布密度が高く、規模も大きく、人口密度の高さを示唆する。

④村落内部は、基本的に平面コの字状を呈した暖房施設である炕を伴う平地式建物から構成される。陶質土器(壺・甕・鉢が中心)に加え、施釉陶磁器を伴う遺跡もある。また瓦・磚・鷓尾を伴う遺跡が大型城郭周辺に分布する。

⑤渤海からの伝統的な村落、新規村落に大別される。ウスリースク市周辺では金代に村落数が増加する傾向がある。

⑥金代の仏教寺院と推定される遺跡が分布する綏芬河流域では、アブリコソフスキー寺院、コピト寺院、ボリソフカ寺院、コルサコフ寺院などの渤海代の寺院も存在する。当該地域では渤海から連続する寺院は確認されていないが、中国東北地方では渤海瓦当と遼・金代瓦当が出土する寺院跡もある。

2. 金代女真の城郭・寺院・村落の相互関係

女真遺跡の相互関係や農業生産・流通システムを知る手がかりになる資料として、平地遺跡出土の瓦が挙げられる。綏芬河中流域の女真遺跡(ダボラポーレ8遺跡、ウチョースナエ4遺跡など)出土瓦のなかには、胎土・

焼成が類似する個体も見られ、特定の窯場で生産された瓦が一定の範囲内に供給されていた可能性がある。

また、綏芬河流域と同様に女真遺跡が多数分布することが知られる日本海沿岸のパルチザンスク河流域に所在するニコラエフカ 2 遺跡では、ニコラエフカ城址でも出土している円形十字スタンプ文を持つ軒平瓦が確認された。これらの点は、建築材料の消費という点において城郭と周辺の村落が密接に関わっていたことを示唆する。

しかしながら、冒頭で述べたように、城郭遺跡に比べると、村落や寺院遺跡の調査事例が少ないため、遺跡間相互関係については不明瞭な点が多い。今後、さらなる資料の蓄積を図る必要があると考えている。

要 約

本研究では、ロシア沿海地方において金代女真遺跡を対象とし、遺跡の分布・立地・構造に関する基礎資料を得るとともに、金代女真遺跡の特質と遺跡間相互関係について検討した。金・東夏代の女真に関する文献史料はわずかなため、考古学的方法は女真社会の実態を理解する上で有効である。今回実施した金・東夏代の集落・寺院・手工業生産遺跡に関する基礎的情報の収集は、女真の社会構造を解明するための第一歩である。

今後、さらなる資料蓄積を図るとともに、日本とも頻繁に交流を行なった渤海(698～926年)や金・東夏を滅ぼしたモンゴル(元)の時期の集落・寺院などと比較検討することによって、環日本海地域を含む北東アジアの

中世社会の特質を明らかにしたい。

謝 辞

本研究の遂行にあたり、ロシア科学アカデミー極東支部歴史学・考古学・民族学研究所の Yu.G. ニキーチン氏、N.G. アルテムエヴァ氏からは、多大なるご協力・ご教示を賜りました。また公益財団法人三島海雲記念財団より学術奨励金のご支援を賜りました。末筆ながら財団の関係各位に深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) 三上次男：金史研究，1～3，中央公論美術社，1972～1973.
- 2) 白杵 勲・N.G. アルテムエヴァ：北東アジア中世城郭集成 I，札幌学院大学総合研究所，2010.
- 3) Н.Г.Артемьева：Российский Дальний Восток в древности и средневековье：открытия, проблемы, гипотезы, pp. 542-591, Владивосток, 2005.
- 4) 中澤寛将：白門考古論叢 II，中央考古会・中央大学考古学研究会，pp.279-300, 2008.
- 5) 中澤寛将：中央史学，32，中央史学会，pp.17-37, 2009.
- 6) 中澤寛将：考古学ジャーナル，605，ニュー・サイエンス社，pp.22-26, 2010.
- 7) 中澤寛将ほか：日本考古学協会第 77 回総会研究発表要旨，日本考古学協会，pp.214-215, 2011.
- 8) Болдин В.И., Никитин Ю.Г.：Отчет об археологической разведке в Октябрьском районе Приморского края в 1996 году, Владивосток, 1997.